

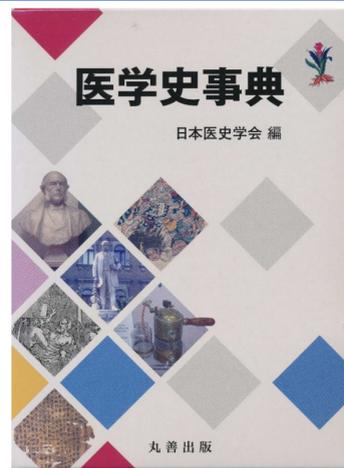
一般社団法人 日本医史学会



現代社会における医史学とは History of Medicine in the Contemporary World

医学は私たちの健康と生命を守る営為であり、人間社会のどの地域・時代にも存在しています。医学の歴史は経験知と哲学をもとにした古代の伝統医学から始まり、次第に科学・技術と結びつきを強めてきました。21世紀に入って医学・医療は、あまねく多くの人たちに高度な医療を提供できるようになり、社会の中で存在感を増しています。医史学は、先人たちの事績や過去の医学知識にとどまらず、医療と社会・文化との関わり、薬学・生物学など周辺分野との関わりまでもが視野に入れて、現代社会における医学の役割と意義をも解き明かします。

日本医史学会編『医学史事典』丸善出版, 2022



最近の研究成果から

1) 死因別死亡率、日本と米国の違い (図1, 2)

日本では1945年以後に感染症（肺炎、結核、胃腸炎）による死亡が急減し、2000年以後は①悪性新生物、②心疾患、③脳血管疾患が主要な死因で、肺炎が3-4位に入る。

米国では1990年代にインフルエンザ／肺炎が6位、HIVが8位に入り、また2020年にはCOVID-19が3位になった。

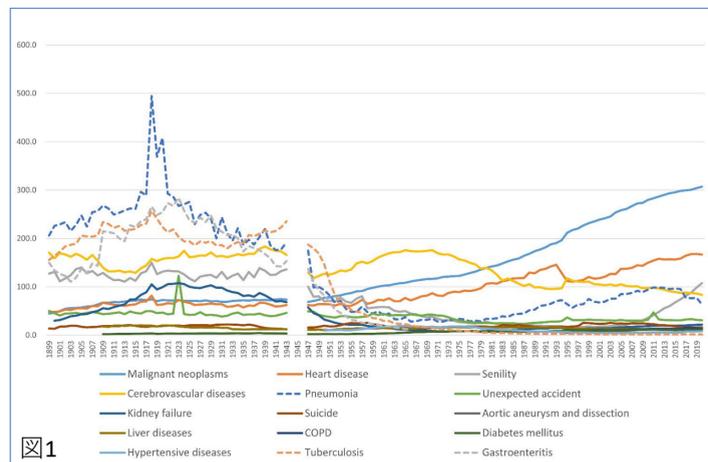


図1

2) 最近6年間の死亡率の変化 (図3)

わが国では、COVID-19流行の始まった2020年には、年齢調整死亡率は減少して負の超過死亡を示した。人流抑制などにより、インフルエンザ超過死亡などが減少したためと考えられる。2021年秋以降死亡は増加に転じ、2022年に入ると、超過死亡の増加傾向がみられる。

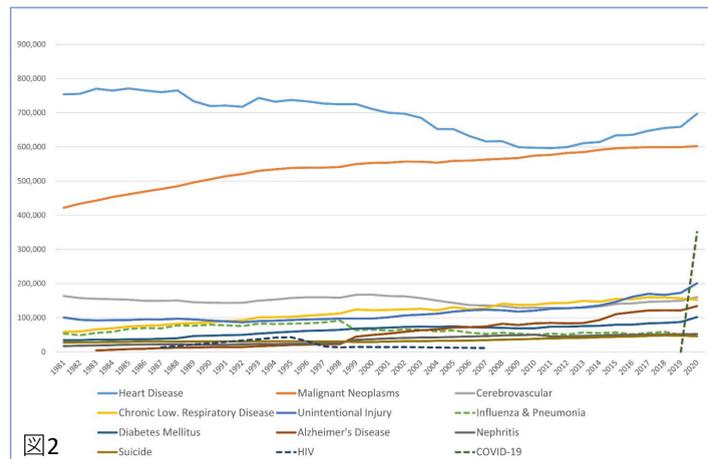


図2

3) アウトブレイク時における船舶検疫の今昔 (図4)

日清戦争帰還兵の検疫で消毒場内は消毒の前後でゾーニングされた一方、大型クルーズ船のゾーニングは構造的に困難であり、立ち入り前から個人防護衣の装着が余儀なくされた。

4) 明治初期、一部の地域の種痘医たちは民間の種痘結社を結成し種痘活動を行っていた (図5: 近友勝彦氏蔵、難波経直の種痘結社についての手紙)。また、千葉県では種痘医が不足していたため、農民が種痘医の免許を取得して施術を行っていた (図6: 千葉県文書館蔵、千葉県第九大区の種痘医リスト)。

〔参考文献〕

Sakai T, Morimoto Y: The history of infectious diseases and medicine. Pathogens 2022, 11(10), 1147; <https://doi.org/10.3390/pathogens11101147>

逢見憲一: 2000年以降わが国死因別年齢調整死亡率とインフルエンザ・COVID-19超過死亡. 第87回日本健康学会 (旧称: 民族衛生学会) 総会, 東京およびオンライン開催. 2022/11/3-4, 11-12

松村紀明: 明治初期岡山の種痘活動(救助種痘)関連の新出史料. 日本医史学雑誌. 2022 Sep; 68(3) 243-245.

全死因 月別年齢調整死亡率と変化率 (2020年10月人口へ換算, 男女総数)

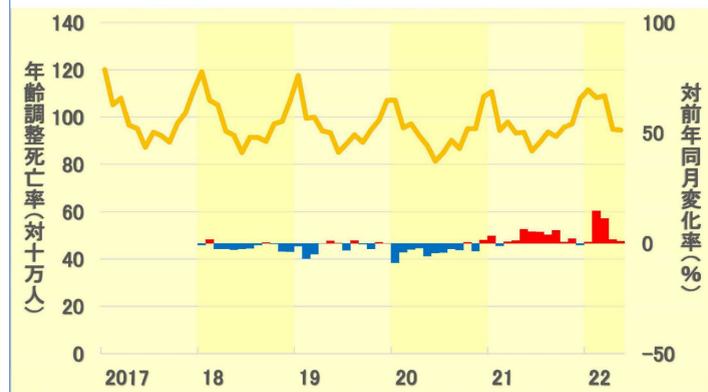


図3

アウトブレイク時における船舶検疫の今昔 2020年 (COVID-19) vs 1895年 (コレラ)

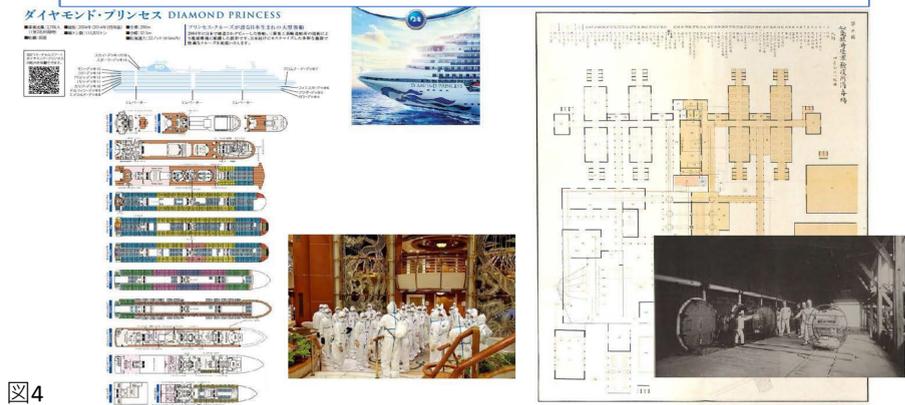


図4 (https://www.princesscruises.jp/pdf/jhp2022-23.pdfより改変) (陸軍省『臨時陸軍検疫部報告提要』より改変)

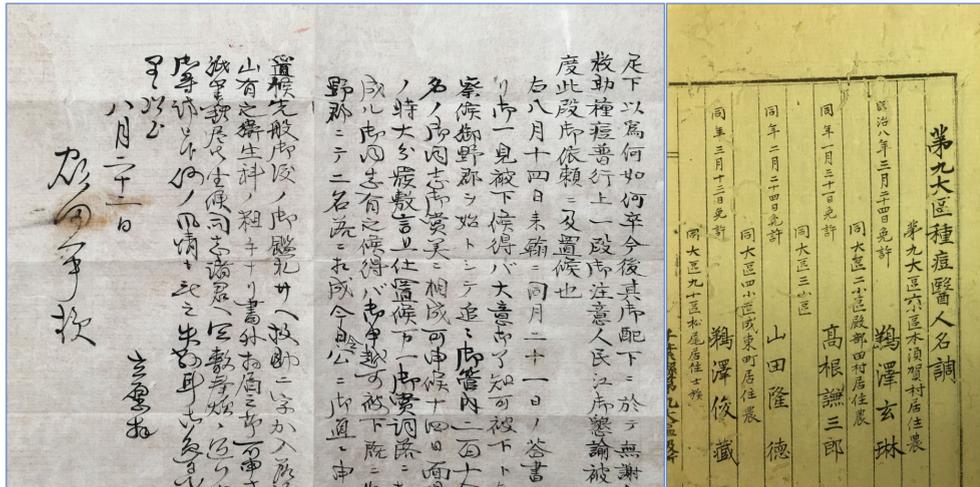


図5 図6